

複 刻

叢書 日本の童謡

■全38冊＋別巻解説書■上 笙一郎 編

日本の心を奏でる珠玉のアンソロジー

童謡史を全貌し、未来へつなぐ虹色のコレクション

全巻揃
残部
数組

(2024.1)

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

*この案内は本書発刊時のものです。
(大空社 1996-1997年)

『叢書 日本の童謡』刊行にあたって

近代の日本は、世界的に見て児童文化の豊かだった国のひとつであるが、数ある子どもたちの文化のうち、童謡は、芸術的にもっとも高度な達成を示したといえることができ、北原白秋・西条八十・野口雨情・三木露風などによって創られた童心の美しい詩は、山田耕筰・中山晋平・本居長世・弘田竜太郎といった音楽家の手で曲をほどこされ、子どものみならず大人たちからも愛唱されて、国民文化の域にまで達していたのでした。

こうした近代日本の童謡の歩みを、当時刊行された童謡集や少年少女詩集を複製することによって追って見たのが、この叢書『日本の童謡』です。明治末・大正初期の有名芳水の感傷的な少年詩に始まり、大正中期に『赤い鳥』その他の童話雑誌を舞台として大きく羽ばたいた童謡が、昭和前期に新世代を迎え、その間に歌人・童画家・大衆歌謡の作詞家などの参入を見て榮えて行った、その全歴史を目のあたりにすることができるとでしょう。

数百部しか作られなかった本が多く、中には発売禁止処分を受けたものもあって、今日ではすべてが稀観本中の稀観本となっています。そしてそれらの童謡集や少年少女詩集は、いわゆる童画家や抒情画家の華麗なイラストレーションで飾られており、児童出版美術のすぐれた遺産としても価値あるものとなっています。

多くの人が、子どもの日に歌い馴染んだ童謡作品を元本のうちに確認し、自身の心情的アイデンティティを発見されたいように。そして児童文化や教育研究者にとっても、この複製叢書が各々の研究を一段と深める貴重な遺産となりますように。

児童文化史研究家

上 笠 一郎

『叢書 日本の童謡』を推薦します。

世界に比類ない美しく、宝玉のような詩集

藤田圭雄

大正七年七月、雑誌『赤い鳥』の創刊を機とし、北原白秋、西条八十、野口雨情を中心に華開いた童謡運動は、世界に比類ない美しく楽しい韻文活動として、子どもたちの世界に華やかな夢を描きつけて来た。七音五音を中軸とする日本の韻文は、スタートの号砲と共に無数の詩人たちをレース線上に立たせた。それ以来百年近くの時代の波の中に、それら無数の作品は、簡素な姿のまま古書店の棚上に朽ち果てた物もあり、また、艶やかな画家の力添えもあって美しい色彩世界に生きていくものもある。これら多く宝玉のような詩集の中には、今日滅多に目に触れることの出来ぬものも多い。今回上笠 一郎のコレクションの扉が開かれ、その貴重な蔵書が原本そのままの姿で私共の机の上に飾られることは嬉しい。一九六九年、私はハワイ大学にいた。授業の間の時間は上原教授の部屋で休んでいた。その上原教授の編著書もここにある。

(日本児童文学者協会名誉会長)

日本の国民文化の童謡

倉澤栄吉

沖縄がまだ占領下にあった頃、日本政府は教育のレベルアップを図って「教育指導員」なるものを派遣した。その頃、文部省初中局に勤めていた私は、派遣団の一員として四ヶ月程滞在、現地の国語の先生方を相手に、伝達講習のような仕事をしたのであった。私は講習会の開始の冒頭、受講者と共に、日本の童謡を合唱するのを常とした。

まどみちお「ふしぎなポケット」

巽聖歌「たき火」その他、雨情、白秋、八十の作品などが歌われた。

これら日本の童謡を口ずさむことによって私は、受講生とともに、国語教育研究の世界に、自然に入っていくたのである。学校教育だけではなく、わが国のすべての家庭や社会に童謡が歌い続けられていくように切望するものの一人である。

「赤とんぼ」が愛唱歌のトップにあるうちは、日本の国民文化は安泰である。

(日本国語教育学会会長)

深いよろこびを与えてくれる童謡

中川正文

私のようにハナハト読本で育ったものにとつて、詩や歌は唱歌であり、わらべうたであった。いまでもその一節を聞いただけで、ばつと全体が浮かびあがる。繰り返して読んでいたからだ。

それはそれで意味あることであつたと言えるが、今になって口惜しい思いをするのは、同じ時期に『赤い鳥』など刊行されていたことや、まして唱歌やわらべうたのほかに童謡というものがあつて、盛んに愛誦されていたことを、殆ど知らずにいたということである。大人になって児童文学にかかわるようになって、やっと気がついて驚いたものだ。

その点このたびの複製は、口惜しい思いをした私たちの世代に古典的な童謡集を提供して容易にここを癒してくれるだけでなく、若い研究者や幸運な青少年にとつて、すぐれた童謡との出会いが、いかに深いよろこびであるかを体験させてくれるに違いない。それは古典が現代にもしっかりと生きていく証であるし、また現代に生きていくからこそ古典といえる当然のことに気づかせてくれる。

(日本児童文学学会会長)

*この案内は
本書発刊時のものです。
(大空社 1996-1997年)



子どもの夢を豊かに育んだ時代の 空気を共にする感動。

現代の子ども、親、教育者への大切な贈り物

中田喜直

今、再び童謡が新しい脚光を浴びるようになってきたこの時に、この素晴らしい「叢書 日本童謡」が刊行されることは、非常に嬉しいことであり、その意義は非常に大きい。十年程前は、童謡が殆ど忘れられ不遇な時期でもあった。日本童謡協会は各地の童謡愛好家や、団体、行政など理解のある人達と協力して、童謡の復興に力を入れてきた。その成果が次第に大きくなってきたようである。

私達は新しい現代の童謡の創作を重要な仕事としているが、それは明治・大正・昭和の輝かしい童謡の歴史があって、はじめて可能なことなのである。白萩、八十、雨情、山田耕筈、弘田龍太郎、本居長世等、当時の最高の芸術家によって作られた童謡。その全容が、さらに巾広く、奥深く見えてくるこの叢書。やさしい心、思いやりのある豊かな心を忘れた現代の子ども、親、教育者にとって大切な贈り物になることと思う。

(社)日本童謡協会会長

△子どもの心に残る童謡Vを指標

大畑祥子

「童謡」という語句には、懐かしい響きがあり幼い日の思い出と重なります。それは歌であったり、挿絵とともに折々に楽しんだ本であったりしますが、その時の状況、情景も含めてよみがえって参ります。

子どもは小さな大人ではなく、子ども独自の世界をもっているという「子どもの発見」の時代、加えて大正期の芸術運動などの思潮を背景に、子どもの世界が、大人の夢とロマンをおりこんで童謡に謳いあげられました。

この豊かな「児童文化」としての近代童謡の歴史が、今では目にするのできないものも含めて刊行されることの意義は大きく、研究書としてこの上ない貴重な資料となるに違いありません。心からの期待と敬意を表したいと思います。

歴史の中に未来の秘密が横たわっているといわれます。詩、歌、児童画などの各々の研究者にとりましても、子ども心に残る童謡の少ない現状に、この「叢書 日本童謡」は大きな指標となることでしょう。

(日本女子大学教授)

母から受け継ぐ感動を次世代へ

鷺津 名都江

一流の詩人たちが子どもたちのために詩をつくり、その詩に一流の作曲家たちが曲をつけた日本の童謡。どれ程多くの日本の子どもたちがその恩恵に浴びてきたでしょう。このように芸術の香の濃い童謡は、世界の子どもの歌のなかでも稀有であると聞きました。

しかしいつごろからか、日本の童謡、と言えは、懐かし、という言葉が添えられて現代の子どもにはアピールしないと思われるような風潮になり、残念です。

母から多くの童謡を聞いて育ち、併せてその挿絵や装丁の素晴らしさも聞きましたが、初山滋、武井武雄、路谷虹二……といった方たちの絵には、私もほとんど触れる機会がありませんでした。この復刻版により母と共通の感動を得られればと思っています。

そしてこの機会に、童謡をノスタルジアや研究材料として見るだけでなく、次の世代にも受け継がれていくよう、現代の子どもたちと共に味わって頂けたら……と願っています。

(目白女子短期大学助教授)

出した懐かしくも楽しい名作童謡詩集の数々

叢書

日本の童謡

■ 第1回配本 19冊
■ 第2回配本 19冊・別巻1



官製の唱歌ではなく、

民間の子どものための詩が、

芳水・水裏らによって芽びいていく。

■ 詩集 『ふる郷』 有本芳水／装幀 川端龍子

大正七年三月 実業之日本社（解説 清水恵理）

児童文学史における少年詩の母と評される芳水の第三詩集。詩集の序にあるように「幼き日の夢のかずかずを少年の日に吹きける麦笛の如く歌い続け」、全国の少年少女読者の熱い支持を得た珠玉の詩集を収録。

■ 『口語詩集』 浜千鳥 星野水裏

装幀・川端龍子

明治四十四年七月 実業之日本社（解説 佐藤光二）

近代童謡の草創期を彷彿とさせる名作集。いずれの作品も少女の目から見た事物が可憐に描き出されている。楽しい問答形式のこの門あけてくださいな「今宵は是処に宿りませ」も収録。

■ 『名作童謡 少年の歌』 児玉花外

大正一一年四月 岡村書店（解説 谷悦子）

『東方の旭日と、桜の国に生れた、わが少年のために、愛と熱とをもつて歌った詩です。』と巻頭言にあるごとく、少年の雄心を鼓舞する傑作童謡を集大成。「飛行文豪ダヌチオを讃ふ詩」「熱血児高山彦九郎」など快吟六〇余編を収める。



波原鏡村「青ぞらのとり」より



子どもの詩情を育むため

詩人・童話作家たちも

大いに才を揮った。

■ 『ひろすけ童謡集』 小島と花と 浜田広介

画 初山滋

大正一四年六月 文教書院（解説 向川幹雄）

童謡界の大御所・広介が三〇代のろ結晶させた軽妙無類な童謡七〇編を収録。巻末に中山晋平作曲「鬼の耳」「こんこん小狐」のみそれを付載。著者は昭和九年より雑誌「童謡童謡」を主宰した。

■ 『銀の鈴』 相馬御風／装幀 竹久夢二

大正一二年四月 春陽堂（解説 磯部孝子）

詩集「睡蓮」等で知られる御風の童謡集。草木虫魚や月・雪を歌った名編二八編を収録。弘田龍太郎作曲「うちの燕」がかなかな輝く。中山晋平作曲「花摘み」「春が行く」「夏の雲」の楽譜を添付。



昭和に入り、童謡第二世代である

与田準一、異聖歌が活躍する一方、

全国で郷土色豊かな作品が生まれた。

■ 『旗蜂』 与田準一／装幀 与田準一

口絵 北原白秋／挿絵 恩地孝四郎・棟方志功

昭和八年六月 アルス（解説 長谷川瀬）

雑誌「赤い鳥」「ゴドモノクニ」近代風景「チノキ」に載り北原白秋に絶賛された諸作品を一巻にまとめる。「母さま、母さま、たかいたかいてよ……」と親しまれたたかい、たかいも収録。

■ 『童謡集』 雪と驢馬 異聖歌／装幀 挿絵 深沢紅

昭和六年一二月 アルス（解説 佐藤通雅）

与田準一とともに童謡界の双壁と称された異聖歌。童謡をより高い詩へと展開せしめた白秋が敬慕した「水口」を巻頭に据えたこの書は、童謡史上の一大金文字塔である。八〇〇編中から著者自らが精選した五八編を収録。

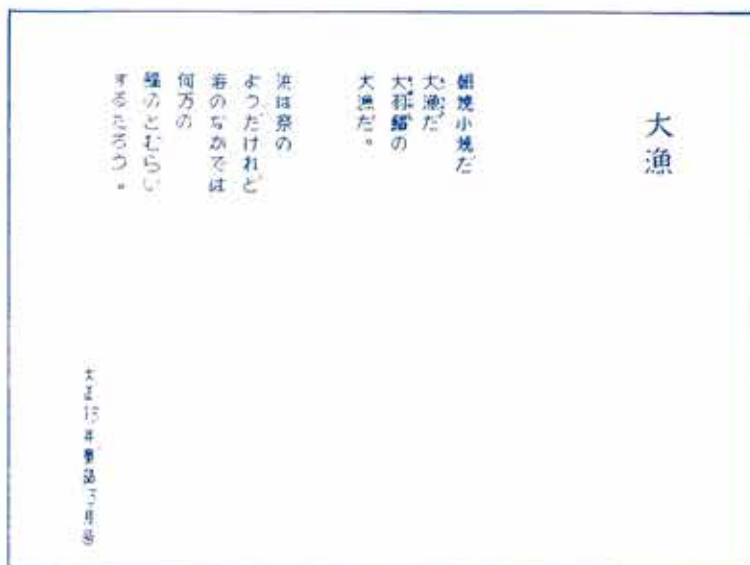
■ 『雀の木』 佐藤義美／挿絵 福田新生

昭和七年六月 高原書店（解説 西山利佳）

「童謡による子供の生活の高揚」を意図した著者の面目躍如たる童謡集。中学生時代から童謡作りに励んだ著者の真摯な姿勢が鑑賞する者の心を打つ。巻末に中山晋平作曲「てふてふ町」「電車」等五曲の曲譜を併載。

*この案内は
本書発刊時のものです。
(大空社 1996-1997年)

近代日本を代表する童謡詩人・画匠が紡ぎ



金子みすず「雨と雲」より

■『天葉詩集』白鳥天葉(省吾)／装幀 和田英作
大正五年三月 新少年社(解説 宮崎芳彦・尾崎るみ)
「森羅万象をあとけなき音律の裡に表はし、また少年の至純なるこころを香かに思ふこと」(著者「はしがき」)を胸に懐いて詩作に励んだ著者の作品集。雑誌「新少年」に発表したものを中心に七〇余編を収録。巻末に散文「生立ちの記」併載。

「夕日」でてる坊主「浜千鳥」など
大衆派詩人の愛唱歌が生まれ、
ひろく子どもにこころに沁みこんでいった。



■『歌時計』水谷まさる／装幀・口絵 伊十川孚
昭和四年六月 行人社(解説 根本正義)
詩童謡・童謡・翻訳と広範囲の文学活動で世に親しまれた著者の生んだ小さな一冊。ジャム地獄「トラパンやん」ほんとしにないけど等愉快な視点と愛らしさがほほえみを誘う五三編を収録。

■『僕等の詩集』サトウハチロー／装幀 河目悌二
挿絵 川上四郎・河目悌二・黒崎義介・加藤まさる
須藤しげる・島田啓三・本田庄太郎・武井武雄・小林和郎
昭和一〇年一〇月 大日本雄弁会講談社(解説 宮中雲子)
「永遠の少年ハチローの真髓が遺憾なく発揮された少年詩集。少年たちのさまざまな情景をとらえた豊富な挿絵と相まって童心を呼び起こす七〇余編。戦後、うたえ運動などで広く歌われた「百舌よなく」を収録。

■『柴木集』島田忠夫／表紙 小杉未醒／扉絵 万鉄五郎／挿絵 森田恒友・小杉未醒・万鉄五郎・石井鶴三
カッパ 川上四郎／扉字 坂井代作
昭和三年六月 岩波書店(解説 上田信道)
「おほく好んで村を田野に探り、農家を写し、村童を描いた(著者「巻末記」)童謡詩集。大正末年から四・五年間につくられたものより三〇余編を自選とのページからも「敬虔」「清新」「樸素な雅味」をもつ、真の童謡詩人(吉江喬松「柴木集」)の作品世界を十分に堪能することが出来る。

詩情豊かな女性の感性から
かるやかで可憐な童謡の世界が
紡ぎだされる。

■『雪』お馬 権藤はな子
昭和七年九月 凡人社(解説 野口存彌)
「雪」は、さくら……と愛唱された、たなばたの原形である「七夕さん」をはじめ「大寒小寒」「うさぎうさぎ」等の郷土童謡の改作・補作を含む七〇余編を収録。巻頭に「なごめ」(坊田かずま編曲)等四曲の曲譜を掲げる。著者は野口雨情の弟子。

■『風』武内俊子／装幀 杉山刺生／挿絵 初山滋
昭和八年一月 歌謡詩人社(解説 西善のりこ)
童女の頃「栗林」「お空の路」「田の田の蛙」から、桃割餅の娘(「まんなまる月夜」十五夜お月さん)を経て、妻・母となり、子供のお守りをして(「お夢の車」「アカシヤの歌」)、母としての喜びを知る(「月夜のお祭」)まで、女性としての著者の半生を辿る童謡集。野口雨情の序を付す。



■『五島列島』近藤益雄／装幀 相沢謙一
昭和九年六月 北方教育社(解説 上 笠一郎)
「今良寛」と称された近藤益雄の第二童謡集。長崎県五島列島のくらしに材をとった六〇余編を収録。「枯淡で生一本で愛が純粹で、子供のまな、玲瓏の心境を(「千葉春雄」序)もつ近藤の、一徹な人間性を感じさせる作品集。

■『スズキ』ヘキ 童謡集「スズキヘキ」
装幀 谷内六郎／挿絵 スズキヘキ
昭和五〇年七月 おてんとさんの会(解説 宮川健郎)
「原始童謡」の旗を掲げたスズキヘキの代表作を精選・収録。郷土に根づき、地方の豊かな世界を写した童謡をつくった、その独自の郷土性故に普遍的な作品までに昇華させた、二二七首の童謡詩人。

野口雨情、竹久夢二、落谷虹児、金子みすず……

大正期、白秋、八十、雨情らの
有名詩人によって

一挙に童謡が大きく華開く。

■『花咲爺さん』北原白秋／表紙・扉絵 武井武雄
挿絵 武井武雄・岡本婦一・清水良雄

大正一二年七月 アルス(解説 関口安義)

白秋童謡第五集。昔のうたへ虫のうたへお山のうたへねんねうた等の部立てで、巨匠の真骨頂をうかがわせる五〇余編を収録。版元のアルスは白秋の弟・鉄雄の経営する文学書を中心にてけた出版社。挿絵二四点を添える。

■『少女純情詩集』西条八十／装幀 加藤まさこ
挿絵 加藤まさこ・田中良・林唯一・川上四郎・須藤しげる・落谷虹児・河目悌二

昭和七年一〇月 大日本雄弁会講談社(解説 菊永謙)

乙女とその周辺に取材した彫心鏡骨の二〇〇編。多数添えられた可憐な挿絵が更に興をかきたてる。「私が少女たちの為に書いたといふよりは、寧ろこれらの優しい純情が私を鼓舞して書かせた有難い贈物である」(著者・はしがき)。

■『青い眼の人形』野口雨情／装幀 落谷虹児
口絵 寺内万治郎／挿絵 寺内万治郎・武井

武雄・落谷虹児

大正一三年六月 金の星社(解説 柴村紀代)

大正一〇年刊行の第一童謡集。十五夜お月さん以後の作品を採録した第二童謡集。いまでも愛唱されている「赤い靴」をはじめ、「青い眼の人形」「千代田のお城」など有名な童謡が多数収録された名品集。

■『お日さま』三木露風／装幀・恩地孝四郎
挿絵 石井了介

大正一五年一〇月 アルス(解説 和田典子)

歐風の意匠を果敢に取り入れた童謡童謡詩集。童謡九〇余編、童謡一九編。「黒い服きた神父さま」「天主様」「日曜日」といったカトリック教徒としての著者の内面をかいま見させる童謡も、巻頭に山田耕筰作曲「ちんろ小犬」「母鳥子鳥」「春の磯辺」を収載。

■『童謡 よしきり』山村暮鳥／装画 斎田喬
表紙題字 山村玲子

大正一一年七月 イデア書院(解説 吉田定一)

民衆詩派の詩人と称された暮鳥のころあたたかな柔らかな童謡集。表題作をはじめ「葱のぼんば」「かやつり草」等野外の風物をほがらかに歌った童謡四〇余編を収載。山田耕筰編曲「霞切鳥」等四曲の楽譜を挿入。

■『鵜の唄』川路柳虹

大正一五年一二月 新潮社(解説 谷萩弘人)

新潮社「童謡詩人叢書」第五編。表題の由来は、童謡創作に自信がなく、「どうやら童謡らしき形のもの」は出来たが、所詮まだ人真似たるを免れまい。(著者「序言」)ということから、八〇余編を収める。

■『童謡 白兔と木馬』葛原鶴
装幀・口絵・挿絵 清水良雄

大正一一年一月 文教書院(解説 石井妙子)

葛原鶴第一童謡集。著者が雑誌「小学校」「幼年世界」「少年世界」等に発表した五〇〇あまりの童謡の中から誰かが親しみやすいもの九九を選出。きんぎょ、きんぎょ……と誰もが口ずさんだ「夕日」も収録。

■『青ぞらのとり』浅原鏡村／装幀 遠山陽子
昭和二年二月 フタバ書房(解説 高橋忠治)

著者が編輯していた雑誌「少女の友」で発表された童謡やノットに書きためていた未発表詩等八〇余編を収録。巻頭には著者作詞・中山晋平作曲「てるてる坊主」を語面付きで掲載。

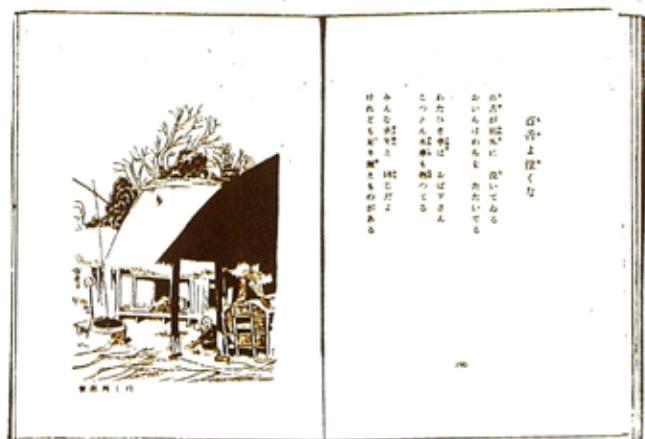
■『童謡集 ばあやのお里』大村主計
昭和七年二月 児童芸術社(解説 佐々木美砂)

「田園的童謡詩人」大村主計が過去の作品三〇〇余編中より三〇余編を自選した童謡集。日本では稀有な田園的童謡の作り手が、さまざまな題材をもとに紡ぎ出した素朴かつユーモラスな世界。「十五夜お月様」「一人ぼち……」「花かげ」も収録。

■『鹿島鳴秋童謡小曲集』鹿島鳴秋
装画 初山滋

昭和四年七月 京文社(解説 草野明子)

「金魚の狂宴」「お山のお娘」など大正八年から昭和四年まで一〇年間における成果を集大成。巻頭には人口に膾炙した「浜千鳥」(弘田龍太郎作曲)や江沢清太郎・草川信による五編の曲譜を掲げる。



サトウ・ハチロー「僕等の詩集」より

■『蘭と墓』金子みすず／装幀・孔版画 津田顯男
昭和四年九月 季節の窓詩舎(解説 島田陽子)

女性独特の優雅でファンタジックな作風で知られる薄幸の詩人・金子みすずの初めての童謡集。表題作のほかは代表的作品「お魚」をはじめとして大正一二年から一五年に至る雑誌「童謡」掲載作品を収めた。

■『童謡詩集 えのこうぐさ』真田亀久代
表紙・扉絵 若山憲

昭和四年八月 現幻社(解説 こわせ たまみ)

著者は日本婦人会議宮崎県本部初代議長。朝鮮での教員生活等、長年月の体験からしぼり取られた情感を女性特有の視点で捉え返し、平易な表現で切々とつづった二二編を収める。



「赤い鳥」「プロレタリア童謡」
「まざあぐうす」等 近代童謡の傑作
アンソロジーを収録。

■『日本童謡集(一九二五年版)』童謡詩人会編

大正一四年六月 新潮社(解説 畑中圭一)

泉鏡花、河井醉茗、北原白秋、西条八十、相馬御風、サトウ・ハチロー、島崎藤村、薄田泣菫、竹久夢二、野口雨情、浜田広介、横瀬夜雨、与謝野晶子、若山牧水、小川未明ら当時の代表作家の名編を網羅し、巻末に童謡年表を付す。

■『赤い鳥童謡集』北原白秋編

昭和五年一二月 ロコス書院(解説 西田良子)

児童文学界を開拓し導いた雑誌「赤い鳥」の創刊号から第二二巻第三号までの掲載された童謡のうち優れた作品を選抜。与田準一・異聖歌の両俊英をはじめとして一〇七名の作者による二〇〇編を収録している。

北原白秋、西条八十、

*この案内は
本書発刊時のものです。
(大空社 1996-1997年)



ささがし
花嫁は
どこへ行った
か
西を切られて、
寂かな
いたづら
どこへ行った
おさん山から

北原白秋「花嫁さん」より

赤彦、牧水の歌人も、
童謡運動に参加し、
大きな成果をあげる。



■『赤彦童謡集』島本赤彦／装幀 平福百穂・
森田恒友／挿絵 川上四郎

大正一一年四月 古今書院(解説 石井光恵)

アラギ派歌人として『太虚集』『柿露集』をのこした赤彦は六人の子の父であり、また小学校教師として子供たちの世界を見つめていた。名歌人のもうひとつの側面を伝える『余編』を盛った童謡集。

■『小さな鳥』若山牧水／装幀・挿絵 川島昌介

大正一三年五月 弘文館(解説 万屋秀雄)

旅と酒とをこよなく愛した歌人・牧水の童謡一八編を収める。ほからかな叙景と生命への慈しみが渾然一体となった放浪歌人の人間味に触れ得る好詩編。巻頭に本居長世作曲「タリヤ」の楽譜を収載。

抒情画家の ファンタジックな絵筆から 愛らしい童謡もまた誕生した。

■『合歡の播盤』加藤まさる

大正一〇年一二月 内田老鶴圃(解説 永田桂子)

幼き日「画描き坊主」と呼ばれた著者がはぐくんでいたほのかな夢が結晶した詩画集。椰子の果「お人形」等の代表的作品のほか五〇余編をおさめ、また多色刷り一二点をはじめを愛らしい挿絵を豊富に収録する。

■『風』竹久夢二

大正一五年一二月 研究社(解説 滝沢典子)

抒情画の巨匠・夢二が画と詩とを惜し気もなくふんだんにちりばめた、愛好家垂涎の童謡集。本書は大正最後の年の年末に発行されており、とりもなわず大正期抒情芸術の掉尾を飾るものであった。

■『抒情詩集』花嫁人形 落谷虹児

昭和一〇年一〇月 宝文館(解説 岩崎真理子)

「きんらんとすの帯しめながら……あまねく知られた表題作をはじめとして著者の多才ぶりをうかがわせる名品五〇余編を収める。あるときは少年少女詩的に、またあるときは小唄調に巧みに描き分けた美麗な挿絵をふんだんに収載。



○お断り○ 本の状態について
本書は刊行年が古いため、一部に函・表紙・小口等に経年劣化が見られますが、本文は概して良好で閲覧に支障ありません。

■『小さい同志』榎本楠郎・川崎大治共編

装幀・扉絵 室順治／口絵 鈴木賢二

昭和六年七月 自由社(解説 大藤幹夫)

プロレタリア童謡を集めた貴重な作品集。岡一太、米村健、牧耕助、川崎大治、松山文雄、織田頼、武田重公、伊東欣一、榎本楠郎の手になる童謡を採録。未開拓のプロ児童文学研究に好例の参考資料を提供する一冊である。

■『まごあぐす』北原白秋訳

見返・扉絵 恩地孝四郎

大正一〇年一二月 アルス(解説 吉田新一)

「白秋童謡集第三集」と題して刊行された英国童謡集。白秋が「創作すると殆ど同様の熱意と熱心とを」(白秋「巻末」)に翻訳に傾けた本書は、原書の機知・風刺・諧謔等を如実に伝え、夙に名訳として定評がある。三色刷り挿絵六枚収録。

■『Songs for Children : Sung in Japan』上原征生訳

口絵 鏑木清方

昭和一五年二月 北星堂書店(解説 原昌)

北原白秋・西条八十・野口雨情・清水かつら等一〇余名の代表的童謡を英訳。外国人に日本語独特のリズムを伝えるためのローマ字表記を併載。翌年に日米開戦をひかえての発行である本書は、まさに童謡史上また海外交流史上の一記念碑と言えよう。

別巻『叢書日本の童謡 解説書』

- I 日本童謡のあゆみ 上 笹一郎
- II 各書解説 専門研究者
- III 童謡研究文献目録 畑中圭一編



加藤まさる『合歡の播盤』より

※掲載の挿絵・文字等は本書の色調とは異なります。

〈原本装幀に準じた複製版〉

複製 叢書 日本の童謡

全 38 冊 + 別巻解説書

上 笙 一 郎 編 (大空社 1996-1997 年刊)

- 児童文化を彩る大正・昭和の代表的作品で日本の童謡の世界を再現
- 原本は稀覯本、丁寧な複製で挿画・装幀の色彩・装飾とともに味わう！

[第1回配本 19点]

詩集 ふる郷 有本芳水 (大正7)〈溝手恵理〉
口語詩新体詩 浜千鳥 星野水裏 (明治44)〈佐藤光一〉
名作童謡 少年の歌 児玉花外 (大正11)〈谷悦子〉
天葉詩集 白鳥省吾 (大正5)〈宮崎芳彦・尾崎るみ〉
花咲爺さん 北原白秋 (大正12)〈関口安義〉
少女純情詩集 西条八十 (昭和7)〈菊永謙〉
青い眼の人形 野口雨情 (大正13)〈柴村紀代〉
お日さま 三木露風 (大正15)〈和田典子〉
童謡 よしきり 山村暮鳥 (大正14)〈吉田定一〉
鸚鵡の唄 川路柳虹 (大正15)〈谷萩弘人〉
ひろすけ童謡集 小鳥と花と 浜田広介 (大正14)〈向川幹雄〉
銀の鈴 相馬御風 (大正12)〈磯部孝子〉
歌時計 水谷まさる (昭和4)〈根本正義〉
僕等の詩集 サトウ・ハチロー (昭和10)〈宮中雲子〉
柴木集 島田忠夫 (昭和3)〈上田信道〉
雪こんこお馬 権藤はな子 (昭和7)〈野口存彌〉
風 武内俊子 (昭和8)〈西寄のり子〉
繭と墓 金子みすず童謡集 金子みすず (昭和45)〈島田陽子〉
童謡詩集 えのころ草 真田亀久代 (昭和48)〈こわたたまみ〉

収録作品

解説書 (別巻に収録)

[第2回配本 19点+別巻]

赤彦童謡集 島木赤彦 (大正11)〈石井光恵〉
小さな鶯 若山牧水 (大正13)〈万屋秀雄〉
童謡 白兔と木馬 葛原しげる (大正11)〈石井妙子〉
青ぞらのとり 浅原鏡村 (昭和2)〈高橋忠治〉
童謡集 ばあやのお里 大村主計 (昭和7)〈佐々木美砂〉
鹿島鳴秋童謡小曲集 鹿島鳴秋 (昭和4)〈草野明子〉
合飲の揺籃 加藤まさる (大正10)〈永田桂子〉
風 竹久夢二 (大正15)〈滝沢典子〉
抒情詩画集 花嫁人形 落谷紅児 (昭和10)〈岩崎真理子〉
旗・蜂・雲 与田準一 (昭和8)〈長谷川潮〉
童謡集 雪と驢馬 巽聖歌 (昭和6)〈佐藤通雅〉
雀の木 佐藤義美 (昭和7)〈西山利佳〉
五島列島 近藤益雄 (昭和9)〈上笙一郎〉
スズキヘキ童謡集 スズキヘキ著・スズキヘキ友達会編 (昭和50)〈宮川健郎〉
日本童謡集 1925年版 童謡詩人会編 (大正14)〈畑中圭一〉
赤い鳥童謡集 北原白秋編 (昭和5)〈西田良子〉
小さい同志 プロレタリア童謡集 榎本楠郎・川崎大治編 (昭和6)〈大藤幹夫〉
まざあぐうす 北原白秋訳 (大正10)〈吉田新一〉
Songs for Children: Sung in Japan 日本童謡集 上原征生訳 (昭和15)〈原昌〉
別巻『日本 童謡のあゆみ』

別巻『日本 童謡のあゆみ』(上笙一郎編) *分売可

総説・解説・童謡研究文献目録(畑中圭一編)

童謡作品名/作者・作曲者名索引 A5判・上製・360頁

4-7568-0378-4 定価 6,600 円 (本体 6,000 円 + 税 10%)

全巻揃
残部
数組

(2024.1)



* 分売不可

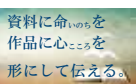
(一部の巻は分売可。
お問合せください。)

全38冊 + 別巻 揃定価294,758円 (本体 267,962円 + 税10%)

第1回配本 (1996年9月) 4-7568-0305-9 揃定価 147,379 円 (本体 133,981 円 + 税 10%)

第2回配本 (1997年3月) 4-7568-0306-7 揃定価 147,379 円 (本体 133,981 円 + 税 10%)

お
取
扱
い



学術資料出版

大空社出版

TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461

eigyo@ozorasha.co.jp

東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)